

令和5年度の事業報告書

令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

特定非営利活動法人嘉瀬川交流軸

1 事業の成果

嘉瀬川と嘉瀬川流域における地域活性化、観光・産業振興に資するため、不特定多数の市民・団体等を対象とした各種イベントの実施、各種メディアを用いた広報活動等を行った。事業実施に当たっては、市報等を通して不特定多数の市民、団体等に幅広く呼び掛け、一般市民が参加可能な公益事業となるよう努力した。今年度も、国土交通省武雄河川事務所、佐賀市河川砂防課から嘉瀬川防災施設さが水ものがたり館の運営補助事業を受託し、防災及び環境に関する各種事業を実施した。

令和4年11月6日、好天の下「嘉瀬川ダム竣工記念10周年記念感謝祭」を開催した際、「嘉瀬川交流軸を事務局とする嘉瀬川ダム感謝祭は第10回で終了する」旨宣言したが、各河川で「流域治水」が模索されている時点で、嘉瀬川の治水と利水に大きな貢献を果たしている嘉瀬川ダムに感謝する式典は継続すべきであるとの意見が多く出されたことから、継続可能な小規模な感謝祭の形式を提案し、最大の利水団体である白石土地改良区と嘉瀬川交流軸主催、佐賀県建設業協会、（一社）九州地方計画協会の協賛で継続することにした。感謝祭継続に賛同いただいた地元富士町の嘉瀬川ダム活用推進協議会、森の香り菖蒲御膳の参加を得て、令和5年11月5日（日）に「第11回嘉瀬川ダム感謝祭」を実施することができた。

さらに、昨年度に引き続き久保田まちづくり協議会の支援も得て「牡蠣礁復活事業と森林公園水環境復活事業」を実施し、市民と行政が協働で推進する新たな公共事業の雛形を提示することができた。また「さが水ネットと佐賀県河川砂防課KAWARUプロジェクトとのコラボ発表会」を企画・実施し、佐賀県が推進する「森川海っ人プロジェクト」に積極的に参加することで、森と川と海を繋ぐ活動の一翼を担うことができた。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A)当該事業の実施日時 (B)当該事業の実施場所 (C)従事者の人数	(D)受益対象者の範囲 (E)人数	事業費の金額 (単位：千円)
①嘉瀬川と嘉瀬川流域に関連した環境教育及び生涯教育に関する事業	さが水ものがたり館の運営補助 石井樋公園内のさが水ものがたり館の運営補助を佐賀市及び国土交通省武雄河川事務所から受託し、事業を行うことができた。コロナ収束直後の難しい時期にもかかわらず来訪した小学生に「暴れる水と命の水」の意味とそれを修める治水・利水事業の大切さや成富兵庫茂安の治績等を説明することができた。さらに、カヌー・SUP体験会、水生昆虫を用いた水質検査・水の科学実験、キャンプ入門等の体験学習を実施（8回）した。さが水ものがたり館のメイン事業である嘉瀬川交流塾は、1回のバス見学会を含めて例年同様12回の交流塾を開催することができた。	(A)休館日を除く毎日 (B)さが水ものがたり館 (C)10名程度	(D) 佐賀市を中心とした一般市民 (E)1.5万人程度	7,496
②嘉瀬川流域の地域連携及び地域づくりに関する事業	佐賀県森川海っ人プロジェクトへの参加 佐賀県河川砂防課が主宰する佐賀県KAWARUプロジェクトと、当法人が事務局を務める佐賀県内河川活動団体「佐賀水ネット」とのコラボ発表会を佐賀県庁ホールで、交流会をSAGA CHIKA（サガチカ）で実施し、団体間の交流を深めた。	コラボ発表会 (A)令和6年1月27日（土） (B)佐賀県庁ホール & SAGA CHIKA (C)10名	(D) 佐賀県内の河川団体及び佐賀県・国交省職員 (E)80人程度	10

②嘉瀬川流域の地域連携及び地域づくりに関する事業	さが水ものがたり館館長出張出前講義 嘉瀬川流域においても、平成29年度の九州北部豪雨、令和2年7月豪雨時に浸水被害が発生し、水防災に関する関心が高まりつつある。佐賀市内の自治会・公民会等から防災を中心に講演依頼が多く寄せられ、それに応じて合計27回の出張出前講義を行った。	(A)令和5年4月～令和6年3月 (B)公民館等各所 (C)1名	(D)主催者が募集した一般市民 (E)総参加者概数1500人程度	10
②嘉瀬川流域の地域連携及び地域づくりに関する事業	「第11回嘉瀬川感謝祭」を実施 最大の利水団体である白石土地改良区と嘉瀬川交流軸主催、佐賀県建設業協会、（一社）九州地方計画協会の協賛で「第50回感謝祭」までを目指して感謝祭を継続することにした。感謝祭継続に賛同いただいた地元富士町の嘉瀬川ダム利活用推進協議会、森の香り菖蒲御膳の参加を得て、11月5日（日）に「第11回嘉瀬川ダム感謝祭」を実施することができた。当法人は実行委員会事務局を担当し、企画立案から会計処理まで中心的に活動した。	(A)令和4年11月6日（日） (B)嘉瀬川ダムしゃくなげ湖畔広場 (C)15名	(D)主催者が募集した一般市民 (E)総参加者100人程度	84
②嘉瀬川流域の地域連携及び地域づくりに関する事業	嘉瀬川河川敷におけるキャンプ場の運営 平成30年から継続している嘉瀬川河川敷の利活用に関する検討成果の一つとして、大井手堰下流左岸の河川敷において社会実験としてキャンプ場運営を行った。使用料無料、LINE登録、予約システムの気軽さが受けて、大勢の市民に利用していただいた。特に土日は常に予約で満杯の状態が続いた。これまでになく嘉瀬川河川敷及び石井樋公園における子育て世代の利用が目立つようになった。社会実験は3年間に及んだので石井樋公園を管理する佐賀市より中止要請があり令和6年3月末をもって終了した	(A)令和4年4月～令和5年3月 (B)大井手堰下流河川敷 (C)2名	(D)佐賀県内を中心とした一般市民 (E)2千人程度	10
②嘉瀬川流域の地域連携及び地域づくりに関する事業	河川協力団体受託事業 嘉瀬川河川敷における「ヌマンデー」開催 「ヌマンデー」とは「沼にはまるようにアウトドア活動は魅力的である」を意味する若者言葉である。河川協力団体としての国交省からの受託事業の一つとして嘉瀬川河川敷において、デイキャンプ体験、アウトドアグッズ食品（パン・トマト・雑貨小物）の展示・販売等を内容とする「ヌマンデー」を開催した。	(A)第1回：6月11日（日） 第2回：10月1日（日） (B)嘉瀬川大井手堰下岸河川敷 (C)5名	(D)佐賀県内を中心とした一般市民 (E)3500人程度	495
④嘉瀬川及び嘉瀬川流域における防災や水利用を含めた環境問題の啓蒙、調査研究に関する事業	佐賀水ネットの事務局機能 佐賀県内で活動する河川協力団体（当法人を入れて3団体）と水関連活動団体（7団体）で結成した「佐賀水ネット」の事務局機能を果たした。主たる活動としては毎年11月に開催される「九州川のワークショップ」に佐賀水ネットとして纏まって参加することになっているが、今回は鹿児島県鹿屋市の開催で、遠方のため、団体での参加は断念した。	A)9月～2月各2回、合計4回 ○KAWARUプロジェクトとのコラボ発表会 令和6年3月11日（土） 県庁1FSAGACHIKA (B)主にさが水ものがたり館 (C)当法人から延べ25名	(D)佐賀県内水関連活動団体10団体関係者 (E)延べ80名	100

⑤嘉瀬川及び嘉瀬川流域の環境の創出等に関する事業	森林公園水環境復活作戦 3町（嘉瀬・久保田・鍋島）まちづくり協議会、佐賀県佐賀土木事務所、森林公園管理者等と連携し、森林公園自然池北端に設置したビオトープ・水路にの維持管理とを行うとともに、水質・底質改善を目的に池干し事業を実施した。加えて、佐賀大学生サークル組織Green-Nexusの協力を得て、森林公園展示室に設置した淡水魚水槽の維持管理を行った。	(A)池干し事業 11月11日（土） B)検討会：森林公園管理事務所 池干し事業：佐賀県立森林公園自然池 (C)延べ10名程度	(D)まちづくり協議会役員、佐賀市民 (E)延べ350名程度	120
⑥その他、この法人の目的の達成及び活動の実現するために必要な事業等	兵庫竹林活用・カキ礁復活 有明海の水質、低湿の改善効果が期待できる牡蠣礁復活を目的に、久保田まちづくり協議会と共催で、石井樋公園内竹林の竹を切り、有明海に立て込む事業を行った。 1) 兵庫竹林の竹切り 2) カキ礁復活を目指した干潟竹立て	A)竹切り作業 1) 6月4日（日） 干潟竹立て 2) 7月29日（日） (B) 1) 水ものがたり館周辺 2) 嘉瀬川河口 (C)5名	(D)佐賀市民 (E)延べ85名程度	93
合計				8,418